

期間限定公開

収蔵庫から見つけた、文学史の空白

松本清張

幻のデビュー作 発見



『ある盗賊の話』



『百八煩惱』



—— 展示場所 ——

ニュースパーク
(日本新聞博物館)
3階 新聞ギャラリー

展示期間

2026年 ※4日(火)は清張忌です
8月2日(日)
～8月30日(日)

入館料

一 般	400円
大学生	300円
高校生	200円
中学生以下	無料

発見の経緯

当館の収蔵庫から、松本清張がデビュー直前に書いた2本の短編小説が確認されました。これまで存在自体は知られつつも、詳細が不明だった清張の作品を特定できたものです。

大阪大学の斎藤理生教授が発見、北九州市立松本清張記念館が確認しました。

掲載されていたのは、当時清張が勤務していた朝日新聞西部本社発行の週刊紙『朝日ウィクリー』。

太平洋戦争後、GHQの統治下で全国に誕生した新興紙の一つです。

占領期の新聞は記事や広告、小説、漫画に至るまで当時の社会・世相が垣間見える貴重な資料で、今後も文学、歴史学、社会学など、さまざまな分野の研究者による「新発見」が期待されます。

このたび、期間限定で清張の作品が掲載されている紙面を初公開します。

戦後の物資不足の時代に発行された新聞で用紙そのものの状態は良くありませんが、紙面の印字は鮮明に残っています。

ぜひ実物をご覧ください。



短編が見つかった
鴨居収蔵庫



製本された
朝日ウィクリー

展示の見どころ



幻のデビュー作

清張がデビュー直前に執筆した2本の短編小説を初公開



占領期の新聞

GHQ占領期に発行された新興紙を所蔵する機関は少なく、資料の状態も悪いため一般公開もめったにありません



ニュースパークとは？

日本の日刊新聞発祥の地・横浜にある「情報と新聞の博物館」。ニュースパーク(日本新聞博物館)は、情報社会と新聞・ジャーナリズムの役割を体験しながら学べる施設です。

記事に込められた記者の思いや新聞が届くまでの流れ、情報社会の姿、情報選択の大切さを分かりやすく伝える常設展示のほか、取材体験ができるゲーム「横浜タイムトラベル」など、体験プログラムも充実。

企画展やさまざまなイベントを実施しているほか、いつでも記念のマイ新聞が作れます。



アクセス

📍 神奈川県横浜市中区日本大通11
🚶 みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口直結
🕒 10:00～17:00(入館は16:30まで)
🏛️ 休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始

 **NEWSPARK**
The Japan Newspaper Museum

公式サイト

